

令和7年度 金沢探究スタイル実践推進事業 報告書

金沢市立戸板小学校	金沢探究スタイル実践推進校	校長 小泉 敦嗣
-----------	---------------	----------

1 研究の重点と具体的な取組

研究主題 自ら学ぶ子の育成

研究副題 子供自ら社会科・生活科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む授業づくりを通して

重点① 子供の学ぶ意欲を高める単元デザインの工夫

- ・子供が社会科・生活科の見方・考え方を働かせる問題解決的な学習の充実
- ・子供自ら学び進めるための単元ゴールの明確化・見通し（学習計画）
- ・ふるさと戸板校区に根ざす魅力ある教材
- ・指導と評価の一体化

重点② 子供自ら学ぶ 本時における探究的な活動の充実

- ・子供の「自分はどう思うか」「自分はどうしたいか」「自分に何ができるか」を大切にしたい授業づくり
- ・探究的な活動「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を意識した子供主体の授業づくり

2 取組の検証

学校評価の教員アンケートで、「自ら学ぶ子供の姿をめざし、単元や本時での手立ての工夫に努めている」に対するA評価の割合が、7月39.1ポイントから、12月50.0ポイントに上昇した。12月A評価＋B評価の教員の割合は100%であり、全ての教員が意識して取り組んだ。

学校評価の子供アンケートで、「授業で、『自分はどう思うか』『自分はどうしたいか』『自分に何ができるか』を考えている」に対するA評価の割合が、7月49.4ポイントから、12月51.4ポイントに上昇し、12月A評価＋B評価の子供の割合が90%を超えるなど、子供が自ら問い、自ら学ぶ、子供主体の学びを大切にしたい授業づくりの成果が表れている。

毎月の教員自己チェックシートや、子供アンケートにおいても、研究に関連した項目について、一定の成果が見られる。

3 成果と課題

- 金沢市一斉公開研究会(10/21)における授業整理会や全体会、事後アンケート等により、市内・県内・県外の先生方に研究の成果を発信しつつ、研究主題「自ら学ぶ子」の育成に迫ることができた。
- 本校で大事にしてきた「単元・本時」の両面で探究的な活動の充実を意識した授業づくりをしたことで、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を図ることができた。
 - ・子供が「選ぶ・決める」経験を重ね、探究的な学びにつなげていく必要がある。